コレンテ　vol. 36　n.299　　ottobre　2015

# CORRENTE

Centro Culturale Italo-Giapponese

現代イタリア事情 -Italia oggi- 第 19 回

## ＊頑張れイタリア！＊

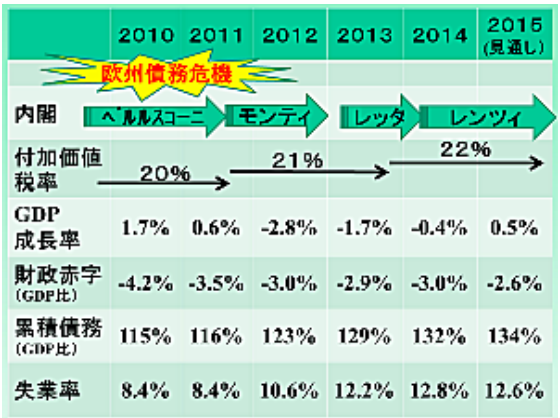
立元 義弘

「イタリアは、世界の軌範となるものを示せる国、そうしたイタリアに戻らなければならない。(L'Italia deve tornare ad essere l'Italia, un punto di riferimento nel mondo.)」———去る8月に初来日したレンツィ首相が到着当夜、イタリア大使館でのレセプションで在邦イタリア人ビジネスマンたちを前に行ったスピーチ冒頭の一節です。

私が、現代イタリア事情と題して日本イタリア会館の会報誌コレンテに寄稿させてもらうようになってから5年が経ちました。5年前といえば世界経済がようやくリーマンショックから立ち直るかに見えた直後、今度はギリシャで起こった債務危機問題が火種となって南欧、ユーロ圏、そして欧州全体へと金融危機が連鎖的に拡大し、その渦中のイタリアも急激な経済状況の悪化に見舞われることとなった時期です。

それ以来、今日に至るまで新聞やテレビのニュースで(経済)危機を意味するクリージ(crisi)という言葉を見聞きしない日は一日としてなかったと言っても大げさではないくらいで、イタリア経済が今もその長い、長いトンネルから抜け出せずに苦しんでいることは、この 5 年間の経済指標の推移が雄弁に物語っています。【表1】

その間、イタリアの政治状況はめまぐるしく変わり、戦後最長の在任記録を更新中であったシルビオ・ベルルスコーニの中道右派政権が、経済政策に対する内外の懸念の声に抗しきれずに退陣に追い込まれた後、学者出身のマリオ・モンティによる政治家抜きのテクノクラート救国内閣、中道左派政党である民主党の副書記長であったエンリーコ・レッタ内閣と続きますが、いずれも短命政権に終わりました。そして、2014 年 2 月、その前年に民主党書記長に選出されていたマッテーオ・レンツィが 39 才 1 か月というイタリア統一後の政権史上最年少の若さでイタリア共和国第 63 代首相に就任し、現在に至っています。冒頭の一節はそのレンツィ首相の、イタリアの再生・復活に向けた自国民と国際社会への決意表明であると受け取ることができます。




| | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 (見通し) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| GDP 成長率 | 1.7% | 0.6% | -2.8% | -1.7% | -0.4% | 0.5% |
| 財政赤字 (GDP比) | -4.2% | -3.5% | -3.0% | -2.9% | -3.0% | -2.6% |
| 累積債務 (GDP比) | 115% | 116% | 123% | 129% | 132% | 134% |
| 失業率 | 8.4% | 8.4% | 10.6% | 12.2% | 12.8% | 12.6% |

【表1：イタリア主要経済指標等の推移】

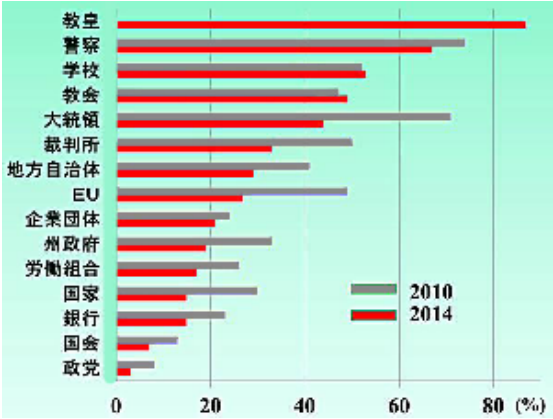
しかし、こうした政治・経済状況の中、この 5 年間に 2 度にわたる付加価値税率のアップをはじめとする種々の増税や、年金受給年齢の引き上げなどの財政緊縮策が国民生活にも大きな犠牲を強いることとなり、不況による雇用の減少と相まって、ここ数年のイタリア社会には閉塞感が漂い、

イタリア人の間にもあきらめムードやしらけムードが広まっているように感じられます。とりわけその煽りを食っているのは若者世代であり、40%を超える若年失業率の高さは深刻で、頑張って高校や大学を卒業してもきちんとした定職につくことなど夢のまた夢といった現在の状況は、これからのイタリアの成長を支える世代におけるニートの増加や人材の海外流出といった由々しき問題を生みつつあります。

イタリアといえば世界中の多くの人々にとって一度は訪れてみたい憧れの国であり、イタリア人自身もイタリア人としてイタリアに生まれ、生きることを誇りにしてきた国です。ところが、昨今の経済危機のせいでそうした彼らの誇りが色褪せてきてしまっているように思えます。最近、私は、イタリアの友人・知人数人にこの 5 年間にイタリア社会やイタリア人の生活はどのように変わったと思うか、という質問を投げかけてみたのですが、返ってきた返事は一様に、生活が厳しくなり、住みにくい世の中になったという内容のものでした。ローマに住む友人などからは、「見せかけの豊かさに立ったイタリア人のお気楽生活はもはやおしまいだ。」と、半ば自虐的なコメントが返ってきました。

【表2】は Demos&Pi という調査会社が毎年行う世論調査で「あなたは次の組織や機関をどの程度信頼していますか」という質問に対し、「信頼している、とても信頼している」と答えた人の割合を 2010 年と 2014 年で比較したものです。驚いたことにその結果は散々なもので、ほとんどあらゆる社会制度や機構に対するイタリア人の信頼度は大きく低下していることがわかります。僅かにプラスとなっているのは学校と教会だけで、とりわけ 2013 年に即位したフランチェスコ教皇に対する人気は絶大で 89%の人々からの信頼を受けています。(2010 年のデータは即位前であるためありませんが。)また、「現在のクリージからの脱出は何年後になると思うか」との質問に対しては、3 人に 2 人(68%)が「少なくとも3年以上先」と考えており、この回答は昨年調査結果の 59%に比べて 9%も増えています。現在の不景気からの脱出はまだまだ先であると悲観的な見方をしている人がさらに増えてきているということがわかります。

もはや cantare, mangiare, amore(歌って、食べて、愛を楽しむ)どころではなく、あとは教会と教皇様への神頼みと言うわけではないでしょうが、残念ながら「いくら頑張ったところでどうせ世の中何も変わらないよ」、といったイタリア人のあきらめとしらけムードを裏付ける結果となっています。




【表2:主な社会制度や機構に対するイタリア人の信頼度】

長引く不況の中で、貧富の格差拡大、あるいは中産階級の貧困化ともいえる現象が進行し、月々の収入では月末の給料日までやりくりできない「第四週症候群 (la sindrome della quarta settimana)」という言葉が生まれましたが、さらに昨今では「その日暮らし症候群 (la sindrome del day by day)」という表現も出現するほどです。また、そこまで生活に困っているというわけではない家庭も、先行きに対する不安からお金を使わなくなってきており、イタリア人の家計事情も大きな影響を蒙っています。

勢い国の経済状況に対する関心度も高まり、ISTAT(政府中央統計局)の調査によると、必ずしも正確でない場合があるにせよ、経済成長率や失業率といったマクロ経済指数を具体的に数字で答えることのできるイタリア人がこの数年間年々大きく増加しており、例えばGDPの成長率を数字で答えることができた人の割合が 2010 年には 19.9%に留まっていたのに対し 2015 年には 63.7%に跳ね上がっています。失業率についても同様で 2010 年に 27.1%であったものが 2015 年には 61.9%とこちらも急増しています。クリージの長期化・深刻化に伴って一般庶民の経済に対する関心の高まりが如実に表れている結果であるといえるでしょう。

さらに興味深いのは経済成長率に対する回答

の平均値が実際の数値より楽観的な数値として出ている反面、失業率は実際値よりかなり悲観的な数値となっていることで、イタリア人の景気が早く良くなって欲しいという期待感と現状に対する危機感が微妙に入り混じっているように見えることです。

ただ彼らも生きてゆくためには嘆いたりしらけたりしているばかりではいられません。バカンス、外食、趣味・余暇に使うお金ばかりか毎日の食費まで切り詰める節約生活を強いられている彼らですが、イタリア人らしい自己防衛のしかたでこの難局を乗り切ろうとする姿が、最近の彼らの生活トレンドにも表れてきています。即ち、「夏のバカンスは期間短縮、LCC（ローコストキャリア）やインターネット予約の利用で予算を削減、でもとにかく夏のバカンスはあきらめない（先の質問を投げかけた知人・友人たちもみなそれぞれバカンスを楽しんだ後に返事をくれました）」、「外食は最近はやりの食べ放題(all you can eat)レストランやバールのハッピーアワー（ワンドリンク＋おつまみ食べ放題）で」、「靴や洋服は夏・冬のバーゲンを待ってブランド品の掘り出し物探し」、「クルマやテレビの買い替えはもう少し辛抱、虫歯の治療も先延ばし（これは少々哀しい気がしますが）」、「けれどもスマホとケータイだけは絶対に手放せない（常に誰かと何かでつながっていることを実感できていないと不安になってしまうイタリア人の必需品です！）」、などなど。

元来イタリア人自らが自認するl'arte di arrangiarsi（なんとかうまく困難を切り抜ける才能）を発揮して最低限の QOL（クオリティオブライフ）を維持するイタリア人の面目躍如たるところです。

【来日時のレンツィ首相】

今回まで 19 回にわたり現代イタリア事情をテーマに、旅行で訪れるだけではなかなか見えてこない素顔のイタリアとイタリア人を知ってもらおうと、様々な切り口から拙文を寄稿させてもらってきましたが、いよいよ今回が最終回です。できることならば＜輝けるイタリアの将来＞をテーマにして締めくくりたかったのですが、残念ながらこのような＜シラケた＞テーマで終えることになってしまったことは大変残念です。

しかし、まだまだトンネルの出口が見えてきたとは言えないにせよ、今年になって第1、第2四半期と GDP もプラスに転じており、7 月の失業率も低下傾向を示すなど、かすかな光明も見え始めてきています。そして、何よりも、既成概念にとらわれない言動と実行力でロッタマトーレ(rottamatore ぶっ壊し屋)の異名を持つレンツィ首相の登場自体がそれまではびこっていた長老政治に終止符を打ち、政界に新風を吹き込んだという意味で歴史上の大きな変化点であるとも言えます。この若く新しいパワーが冒頭の彼の言葉通り「あるべきイタリア」の姿を回復し、私たちにとってもそのイタリアが「憧れの国」であり続けることを祈りつつ筆をおきます。

最後に、今回までお付き合い頂いた読者の皆さま、そして、寄稿の機会を頂いた日本イタリア会館に心より御礼申し上げます。

Forza Italia!（頑張れ、イタリア！）

[図版出典]
表1：IMF World Economic Outlook、等
表2：Demos & Pi　Gli Italiani e Lo Stato Rapporto 2014
画像：http://www.governo.it/Notizie/Palazzo%20Chigi/dettaglio.asp?d=79082

（大阪大学講師、元パナソニックイタリア社長）

## イタリア民話の世界④

## 民話を訪ねる旅　3

剣持　弘子

●モンターレの図書館

前回お話した『モンターレの60話』を上梓したゲラルド・ネルッチには、もう一冊、昔話集があることがわかっていました。それは子どものための昔話集です。地方の出版社から出た本で、残念ながら絶版になっていました。

もしや、その本が現地の図書館にならあるのではないかと閃いたのです。うまくいけばコピーさせてもらえるかもしれないと期待しました。

最初に行ったのは、モンターレの図書館でした。ちょっと目を引くモダンな建物でしたが、できたばかりで、古い本はまだ本館のピストイアの図書館にあるはずだということでした。ピストイアというのは、モンターレの属する県の県都です。さっそくピストイアに車を向けてもらいました。

●ピストイアの図書館

図書館はすぐみつかりました。ピストイアは県都とはいえ、そんなに大きな町ではなかったのです。

係員の男性は親切でした。面倒なことは一切いわずに、一度に全ページをコピーしてくれました。もちろん、そんなに分厚い本ではなかったのですが。

この昔話集も標準語ではありませんでした。前回の小話集ほどではありませんが、すらすら読めるというわけにはいきませんでした。

結局、そのまま日本に持ち帰りましたが、考えた末、例の友人にお願いして、仕事として、標準イタリア語に直してもらいました。彼女もだいぶ苦労したようでした。この稿の末尾に載せたお話は、その中から選んだものです。

●フィレンツェの図書館

ここで、私がフィレンツェで利用した図書館のことをお話ししましょう。

まず立派な国立図書館がアルノ川沿いにありました。何度も通って貴重な資料を利用することができましたが、夏休みに集中して通うつもりだったのに、8月一杯は図書館も夏休みで休館と聞き、いかにもイタリアらしいと感心するやら、がっかりするやら。結局9月を待つことになりました。

その他に、いくつかの子どもの本の図書館に出会うことができました。

日本では、ボランティアで営まれている〈文庫〉が各地にありますが、フィレンツェ、そして多分イタリアの他の地域にもそのような活動はないようでした。ただ、学童保育のようなものがあることを語学学校の先生に教えてもらって行ってみました。図書の貸し出しはしていませんでしたが、指導員のもと、子どもたちはいろいろな遊びをしていました。私はまず、日本の友人が持たせてくれた、夜店でおなじみのヨーヨー風船のキットを出し、水を入れて、手でついて見せました。ところが子どもたちはいきなりそれでキャッチボールをはじめてしまったのです。割れて水が散っては大変と、早々にやめてもらい、あとは折り紙で鶴の折り方を教えてみました。折り紙には興味を示して、何人かが完成させてくれました。

【学童保育の子供たち】

市の子ども図書館にも行って見ました。住宅地の小さな公園の中の簡素な建物で、蔵書もあまり豊富とはいえませんでした。子どもたちは近くの小学校からクラス単位で先生に引率されてきていました。私はその授業に立ち合うことを許されたのですが、テーマが人形だということを聞いていたので、折り紙と割り箸を準備し、簡単な立ち雛をいっしょに作りました。日本のチラシの雛飾りの写真も用意していたので、それを見せながら、ひな

祭りの行事についても簡単に話しました。工作をするときの子どもたちの生き生きした様子は日本の子どもたちと変わりませんでした。

【市営の子ども図書館】

また、町の中心の広場に面した捨て子養育院の地下にも子どものためのささやかな図書館がありました。蔵書はあまり多くはありませんでしたが、気軽に利用できたので、何冊か貸し出してもらいました。

その他に、フィレンツェの西郊には、中学校に併設されたジャンニ・ロダーリ図書館がありました。ジャンニ・ロダーリはイタリアの国際アンデルセン賞受賞作家です。私たちが行ったとき、幼稚園児が引率されてきていて、先生に絵本を読んでもらっていました。幼稚園児が帰ったあと、利用者は私と友人の二人になりました。その日は、フィレンツェでは珍しく雪が降って、車を置いてきた私たちはバスを待っていたのです。すると、思いがけず、職員たちの3時のお茶のお相伴にあずかることになり、ケーキをご馳走になりました。＜おばあさんのケーキ＞というそのケーキはミルフイユのように見えましたが、もう少し噛みごたえがありました。

この図書館は、今は独立した立派な図書館になっているようです。

【今月のお話コーナー：動物昔話】

『雄鶏と狼』

雄鶏が庭で積み藁の中を探していて、一枚の紙きれをみつけた。紙きれにはこう書いてあった。

「雄鶏さんを王様の結婚式に招待します」

もっと探すと同じような紙切れがたくさん出てきた。それは、農家で飼っている鶏や猫や、牛たちへの招待状だった。

動物たちを集めると、雄鶏はすぐにでかけた。

家の裏までくると、そこには狼がいた。狼がおなかを空かしていることはよくわかった。

「おお！　なんてりっぱな雄鶏だ！　じつにうまそうだ！　ちょうど、腹ぺこなんだ。おれさまに食べてもらうために、来てくれたってわけだな」

雄鶏は狼にいった。

「やい狼！　朝から変なことを考えついたもんだよ。おれたちは王様の結婚式に行くんだ、さあ、行かせてくれ。今は起き抜けで、はらぺこだ。うまくなんかないぜ。ここで、おれたちの帰るのを待っているといい。ごちそうで、腹いっぱいになって帰ってくれば、あんたはもっといい朝ご飯にありつけるというものさ」

すると、狼がいった。

「雄鶏くん、きみはいいことをいうね。そのとおりだよ。さあ、通ってくれ、帰りを待ってるぜ」

雄鶏は、一声高く、キッキリキーと鳴き声をあげた。動物たちは出発し、やがて王様の宮廷に着くと、にぎやかにお祝いし、たらふくご馳走を食べた。

さて、家に帰る時間になると、雄鶏はいった。

「さあ、あの狼の牙を逃れる方法を教えてやろう。おれは首にぶらさげた、この牛の鈴を鳴らしながら行く。おまえたちは、おれのあとからついてきて、それぞれのやり方で、大声をあげてくれ。いいな」

動物たちは、雄鶏にいわれたとおりにした。

待ちかまえていた狼に出会うと、雄鶏は駆けて行きながらキッキリキーと大声をあげた。それと同時に鈴が大きな音をたてた。ほかの連中はそれぞれの鳴き方でさわぎながら駆け出した。

狼は、「やあ、雄鶏くん、また、よく来てくれたね！」といって、襲いかかろうとしたが、動物たちのばか騒ぎを聞くと、不安になって聞いた。

「きみの仲間は、どうしてあんなふうに騒いでいるのかね。それに、きみはどうして、首にそんなものをぶらさげているのかね？」

「ああ、おれのこの鈴は王様の結婚式で腹いっぱいになったって印だ。だけど、あの気の毒な連中は、一口も食べることができなくて、えらくおなかを空かせているのさ。それで、腹たち紛れにあんたをごちそうにして、宴会をやり直したいってわけでね。気をつけたほうがいいよ。ほら、つかま

えにやってきたよ」
　狼はすっかり怖くなり、尻尾を脚のあいだに隠して山へ逃げていった。

　次回は民話を訪ねる旅4です。

（イタリア民話研究家）

【捨て子養育院の地下の図書館】

## イタリアンレストラン紹介　～大阪・谷六～

### Pizzeria Morita

**ピッツェリア　モリタ**

**福島で 10 年間親しまれてきた Pizzeria Morita がこのたび谷町六丁目に移転オープンしました。**

特典：ティラミス Pizza をサービス(10 月末まで)
（日本イタリア会館会員証をお持ちの方）

住所：　大阪市中央区谷町六丁目 10-1
（地下鉄谷町六丁目駅徒歩 2 分）
電話：　06-6777-1783
営業：　ランチ 11 時 30 分～14 時 30 分
ディナー18 時～22 時 30 分
定休日：不定休（HP, Tel 等でご確認ください）

## イタリア語　無料体験レッスン

2015 年 10 月より開講の秋期イタリア語講座に向けて、体験レッスンを開催します。 入門者向け。事前予約制。

●京都本校：日本イタリア会館
9/29（火）11:00～12:30　10/3（土）11:00～12:30

● 四条烏丸：ウイングス京都
9/29（火）19:00～20:30

● 梅田：大阪駅前第4ビル
10/5（月）11:00～12:30　10/5（月）19:00～20:30

### イタリア語　無料体験カウンセリング

学習経験者向け。事前予約制。

●京都本校：日本イタリア会館
10/10（土）14:00 より順次

### スペイン語　無料体験レッスン

●京都本校：日本イタリア会館
10/10（土）11:00～12:30

編集・発行 /**（公財） 日本イタリア会館**
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 4
TEL：(075)761-4356/FAX：(075)761-4357
E-mail： centro@italiakaikan.jp
URL： http://italiakaikan.jp/